

愛知サークル1 2月例会報告

2019年12月14日（土）名東小学校 参加：4名

I 「表現教材」の追求

① 合唱：「カントリーロード」「ゆかいに歩けば」「とんび」（全校）（3・4年）

○ 声が出るようにするための準備運動

- ・向かい合ってチェック：眉毛・口角・ほっぺ up・瞳オープン・前歯4本以上
- ・顔のマッサージ：頬骨・小鼻の上・眉毛の上の三点を抑え声出し練習

○ いろいろな条件（時間・人数）のつらさがあるとしても、ごまかしたり逃げたりしない

で、いかに子どもの内面から表現を引き出せるかというところで勝負すべきである。「内容が方法を決める」（高橋金三郎）軸がぶれないようにしたい。

② 体育：「大きな前回り」「補助倒立」（3・4年）

○ 腕がパタンとなっている子に自覚させるには、「やって見せる」「できる子にやってもらう」「子どもの姿をビデオに撮って振り返らせる」など、まだできることはある。恐怖心は、何回も補助をつけてやり、恐怖心を取り除いてやるとよい。

II 「文学教材」の追求

① 「はりねずみと金貨」（3年）音読映像

○ 教師が音読の評価をもたず、子どもに丸投げをしている。子どもが友達の「よいところ探し」ができるためには、子どもに力がなければできない。力がつくまでは、教師がもっと子どもにダメ出しをしてやる。「否定」してやった方がよいのだ。まずは、教師がもっと入って行って、評価してやる。それを子どもが真似をしてやるようになる。

○ 音読表現も2分法でAとBどちらがいい？と選ばせるようにしてよりよい表現を考えさせる。いつも、どっち、どっちと選ばせるようにしていくことが大事。そうやって、相手に何を伝えたいかを意識させる。

②ブックレット検討

○ 「P.17 国語の授業でも、『教師は知っている、理解している。しかし、子どもは知らない、理解していない』というものを、教師はもつ必要があります。」

何のために教材解釈をやっているのか、やるべきなのかの答えがここにある。